

でかい石はなんだ

力石があるそうですが、と観音寺のおばあさん(和尚さんの母上)に聞いたら、南増尾の、どこかの神社に運んだ、と言う。見当はついていた。南増尾に「小鳥の森」という市の公園がある。うっそうとした森になっているが、小鳥を見たことがなく、鳴き声を聞いたこともない。その一角に八幡神社がある。力石はそこにあるだろう。予想は当たった。薄暗く人影がない。本殿には煌煌と裸電球がともっていた。まず参拝する。南増尾一帯の氏神、京都岩清水八幡宮より勧請、四五百年前に鎮座したそうである。

力石の由来が書いてある。当地に元禄の時代から五個の力石があり、地元嘉右衛門宅の氏神様と共に、祀られてあったという。平成三年の建立である。

民話の観音寺と話が違ふ。おばあさんの兄上を訪ね話を聞いた。

南増尾の八幡神社に保存されていた

嘉右衛門は、碑文を書いた小川辰雄氏の屋号で、かいむと呼ばれていたそう。向こう側右端の石が十六貫、ちょうど米俵の重さで力だめしには絶好だったという。その左隣と手前右側には三十貫と彫られている。

昔、木挽き職人で力持ちがいたそう。纏った手ぬぐいを使って持ち上げたと言う。木挽きさんは大きいノコギリで、大きい木を切る。昔は逆井にも大木があったよ。

野田市には七十七個の力石があると。調査し、写真を撮っている(「房総の石仏」14号)。

野田の上花輪歴史館には、醤油を搾り出すときに使う石が展示されておられ、力だめしになりそうなものばかりだ。「房総の石仏」誌では、力石1として東金野井・八幡宮の五十二貫(文化11年)を紹介している。

持ち上げられたのだろうか。

この力石でかくらべやんべえ



「柏の昔話」は、子ども・学校支援ボランティアの「十色(といる)咲かそう会」が紙芝居に作り、毎月、ほのぼのプラザますで実演している。

連絡は、ゆたんぽの会(武井征子7173-4803)へ。